

笑顔をつなぐ 子ども食堂

地域の方などが主体となって、無料または低価格で子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」。区内で活動する2団体に話を聞きました。

江古田にここ食堂



1. 調理ボランティアのみなさんと代表の伊藤さん
2. この日のメニューは人気のカレー 3. 遊び担当のボランティアと子どもたちの交流

江古田にここ食堂

多世代多様な地域の居場所

NPO法人ここからプロジェクトが2018年にスタートさせた「江古田にここ食堂」。現在は江古田区民活動センターを主な会場として活動しています。

緊急事態宣言の解除後、初めての開催となった6月24日。SNSや友人からの情報で知ったという若いボランティアが午後3時過ぎに集まり、手際よく調理を進めます。5時過ぎにはカレーやサラダができあがり、利用者に配るお土産の用意、テーブルや椅子の消毒などを行いました。

6時30分ごろから徐々に親子連れが来場。感染症対策のため、普段より少ない席で間隔を空けての開催でしたが、友人との久しぶりの再会やおいしい食事に、会場のあちこちで笑顔がこぼれました。

夕食後は、遊び担当のボランティアと子どもたちとのひと時も。参加した保護者の一人は「子どもたちが大きくなったと一緒にボランティアに来たいですね」と語りました。

子どもたちを笑顔にするために、多様なボランティアが一致団結して活動できる場を目指しています。

緊急事態宣言期間中の4月・5月も、子ども用マスクやお弁当などを配布しました。大変な時だからこそ必要とされていると感じます。

私たちの子ども食堂は誰でも参加できる場です。外国人の方や高齢者の方など、さまざまな人にボランティアや利用者として来てもらいたいですね。



代表の伊藤さん

現在区内では非公開の団体も含めて、約20団体が活動中。子ども食堂が全国で増えている背景には、子どもが一人でご飯を食べる「孤食」や、満足な食事をとれない貧困家庭が社会問題として明らかになってきたことがあります。そのような問題を、「食」を通じて解決していくという取り組みが子ども食堂です。また、地域交流の拠点としての役割も担っています。



区内の子ども食堂について詳しくはこちら

ぬまぶくろワイワイ食堂



多くの方からの寄付やすばらしい仲間を支えられて、活動を続けています。



代表の中村さん

4. ボランティアの和田さん(左)と高野さん(右) 5. 紙袋の中身は総菜や食材、菓子など 6. 利用者の方の笑顔が活動の原動力

ぬまぶくろワイワイ食堂

絆でつなぐフードパントリー

フードパントリーとは、食料支援が必要な場合に、誰でも食料品などを受け取れる場所のこと。

元調理師の中村さんが2016年に立ち上げた「ぬまぶくろワイワイ食堂」では、50人近いボランティアが活動しています。新型コロナウイルスの影響で3月以降活動を休止していましたが、地域の方々からの寄付を生かしたいと、5月から月に1~2回、有志でフードパントリーを開設しています。

6月20日はメンバーが午後1時過ぎに集まり、寄付された食品や寄付金で購入した総菜などを紙袋に詰めました。袋詰めの中も手作りマスクなどの寄付が次々と。たくさんの思いの詰まった紙袋が訪れた人に手渡されました。

立ち上げ当初からのメンバー、和田さんと高野さんに活動について聞くと、「地域に子どもや高齢者の居場所を作りたいという気持ちで始めたけれど、今はこの活動が自分にとっても居場所になっています」と笑顔で話してくれました。

ボランティアに参加してみたい方へ

中野区社会福祉協議会中野ボランティアセンター
☎(5380)0254 FAX(5380)6027

中野ボランティアセンターでは、区内で子ども食堂や学習支援の活動をしている団体が情報共有する会の開催などを行っています。

子ども食堂のボランティアは調理以外の役割もあり、若い方もベテランの方も、得意なことを生かして楽しく活動しています。興味のある方は、ぜひ一歩踏み出してお問い合わせください。

同センターの山田さん



裏表紙では、お家に眠っている食品を子ども食堂へ寄付する「フードドライブ」を紹介しています